

9月23日 福岡県筑紫郡太宰府町 太宰府天満宮 神幸祭

21日午後1時装束渡

22日午後8時御下り 伴揃い7:30p.m 榎寺へ

23日午後3:30御上り 伴揃い3:00p.m 榎寺発輦

浮殿到着5:00p.m 御供上げ、竹の曲あり

本殿還御6:00p.m みたま移しの後、竹の曲再び奏上。曲名、さゝらの舞、扇の舞。

竹の曲(たけのはやし)はもと観世音寺の寺領内に座があつて六座といふ、六座のものが伝承している。

六座は当時の有力な商人の座で、米屋、藍物屋、鍛冶屋、魚屋など6種の職業にたづさわっていた家々である。直接天満宮に関係なく、菅原道真が晩年九州太宰権師に左遷され都府楼の南館(今の榎社)にちつ居していたが、近くの観世音寺に詣ずることもなく、同寺の梵鐘に心をひかれ「観音寺唯聴鐘声」と詠じた。伝えによると六座の田楽は菅公を慰めるために奏し、菅公もこれを愛したのでその没後、太宰府天満宮の神幸式に竹の曲がお伴するようになったという。

御上りの神幸式には竹の曲は榎社より本殿の鳥居の外に到達するまで道々道中曲を奏する。

稚児(さゝら)1人、笛5人、太鼓1人

鳥居を入れて浮殿までは道中楽を奏しない。御伴上げといつて神輿の前面で楽を奏する。昔は献饌の儀の間ずっと囃子を入れたらしいが今は後で短時間奏する。

稚児も楽人も浮殿に入り坐つたまゝの囃子である。昔の神幸式は竹の曲の道中楽のみで御下りも御上りもやった。今は竹の曲の外に神楽も入り、相撲、稚児行列、花台車、御所車など参加する。又獅子頭2、この獅子頭の外に他村から獅子舞が奉納され、道中各所で演ずる。

浮殿から本殿への神輿渡御行列には竹の曲は参加して本殿楼門下で楽を奏する。

神輿の本殿到着は夜となる。みたま移しの儀を行う際は社内の全灯を消す。後拝殿内にて竹の曲奏上。

さゝらの舞、稚児の立舞、楽人は座したまゝ

扇の舞、稚児さゝらを置き扇子を持って舞う。これには囃子は入らない。楽人一同は謡曲風の節廻しで歌詞を誦ずる。稚児がまづ「釈尊説法の古えは」と前句を唱え楽人一同はその後をうけて「竹の曲に寺を建て、奏の七賢といふし人……」と唱へる。

さゝら、拍板は竹であるという。漆塗り、現在49本。もとは50本あつたが、いつの間にか1本落してしまつたという。

太鼓は皮の裏に元禄年間に修理したという墨字がある由。

六座には古くから6つの面があつたと伝えられる。秋月候の所望により、そのうち1面を献上したという文書が残っている。他の5面は現在、六座で所有。その写しは天満宮にもある。何に用いた面であるか不明。